

平成28年度

第3回新温泉町子ども議会会議録



平成28年10月14日

新温泉町教育委員会

第3回新温泉町子ども議会会議録(平成28年度)

平成28年10月14日(金曜日)

議事日程

- 1 開会
- 2 子ども議長あいさつ 小谷 昂史(夢が丘中学校3年生)
- 3 町長あいさつ 岡本 英樹
- 4 町政に対する一般質問
 - (1) 1番 小西 伶旺 議員 (浜坂中学校3年生)
「学校教育予算について」
 - (2) 2番 邑橋 祐樹 議員 (夢が丘中学校3年生)
「ふるさとの良さを伝える教育の充実について」
「浜坂病院の充実について」
 - (3) 3番 大森 貴翔 議員 (浜坂中学校3年生)
「医療の充実について」
 - (4) 4番 西川 颯太 議員 (夢が丘中学校3年生)
「空き家利用による地域における訪問介護について」
「介護関連会社への空き家利用の補助について」
 - (5) 5番 西岡 海音 議員 (浜坂中学校3年生)
「新温泉町の働く場所について」
 - (6) 6番 中村 心優 議員 (夢が丘中学校3年生)
「若者の定住策について」
「田舎暮らしの良さのアピールについて」
 - (7) 7番 小谷 穂乃佳 議員 (浜坂中学校3年生)
「町の農産物について」
 - (8) 8番 小滝 咲 議員 (夢が丘中学校3年生)
「農業の会社化について」
「企業誘致などの町内施設への再利用について」
 - (9) 9番 坂本 智華 議員 (浜坂中学校3年生)
「道路の整備と防犯灯の設置等について」
 - (10) 10番 谷田 大登 議員 (浜坂中学校3年生)
「文化施設の整備と宣伝について」

議場に出席した事務局職員

事務局 長 清水 久代 書 記 中井 勇人

会議に出席した説明員

町 長	岡本 英樹
教 育 長	岡本 操
会 計 管 理 者	中村 光春
温泉総合支所長	中井 孝吉
総 務 課 長	西村 大介
町 参 事	土江 克彦
病 院 事 務 長	仲村 秀幸
企 画 課 長	井上 弘
町 民 課 長	谷田 善明
健康福祉課長	森本 彰人
税 務 課 長	吉野 松樹
商工観光課長	岩垣 廣一
農林水産課長	太田 洋二
建 設 課 長	田中 雅樹
上下水道課長	松岡 清和
こども教育課長	西村 徹
生涯教育課長	清水 吉晴
調 整 担 当	小谷 豊
調 整 担 当	水田 正仁

午後1時30分 開会

議長（小谷 昂史さん） それでは、只今より「第3回新温泉町子ども議会」を開会いたします。

このたび議長として進行を務めます、夢が丘中学校三年小谷昂史と申します。子ども議会開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。私たちは、未来の新温泉町を今よりもっと豊かで、活気があふれ、住みやすい町となるように、質問や提言をしていきたいと思っております。建設的な議会となりますよう町当局のみなさん、子ども議員のみなさんご協力よろしくお願いします。



町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 町長あいさつ。

町長（岡本英樹さん） 皆さんこんにちは。本日は、第3回子ども議会を開催するにあたり、ご案内を差し上げましたところ、夢が丘中学校並びに浜坂中学校から12名の皆様方にご参加をいただきました。誠に有り難うございます。この場所から皆様方の顔を拝見いたしますと、

緊張した面持ちの中にも強い熱意が伝わってまいります。その姿の頼もしさを感じ大変うれしく思っておるところでございます。

さて、皆さんが今座っておられますこの場所は、議場と言います。日頃、町議会議員のみなさんと私たち町の執行部で、町民のみなさんが新温泉町に住んで良かった、住み続けたいと実感していただけるような様々な問題や課題について議論するとても大事な場所でございます。子ども議会を開催いたしましてから、今年で第3回を迎えました。将来の新温泉町を担う皆さんが質問や意見を発表したり、夢や希望を提言することで町の政治への関心を高め、ふるさとを愛することの大切さを学んでいただきたいという思いから毎年開催を致しております。皆さんにとりましても、町の議会の運営を直接に体験することは、数少ない機会であり大変貴重な経験となるものと思っております。私どもも一生懸命答弁をして、子ども議会での様々な発言が町づくりに大いに役立っていくように、お互いに頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお祈りを申し上げます。

尚、本日は、小西副町長、三崎牧場公園長所要の為、欠席をさせていただきます。

最後になりましたが、本日の子ども議会の開催にあたりまして多大なご尽力をいただきました関係者の皆様方に心からお礼を申し上げますと共に、最後までご清聴頂きますことを心からお祈りを申し上げます。開会のごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお祈り申し上げます。

議長（小谷 昂史さん） 本日の議事日程は、子ども議員の皆さんの一般質問のみの予定です。それでは、一般質問に入ります。初めに、1番、小西伶旺さんの質問を許可いたします。

1番、小西伶旺さん。

1番（小西伶旺さん） はい。浜坂中学校三年の小西伶旺と申します。学校教育予算について質問します。今の浜坂中学校は、耐震工事によりとてもきれいになり感謝をしています。ですが、まだ不便なところがあります。例えば図書室です。図書室は毎日多くの生徒が本を借りる所となっています。ですが、その本が古くなり、図書室に入る人はいますが、読みたいという本が十分ではありません。だから、もっと本の良さを知ってもらうためにも、本を増やし、お金の有効活用が必要だと思います。



町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） ご指摘のように、なかなか教育予算を十分に配当しておるということについては大変努力いたしておりますけれども、ご指摘のような面で十分ではないというふうにも感じております。暑かった夏も過ぎて、今、本当に秋らしくなりました。読書の秋、あるいは、また、燈火親しむ頃、こんなことが言われます。図書館なり、学校の図書室、正に人類の知的遺産がしっかりと凝縮された大変すばらしい場所だと思っております。皆さん方が書に親しんで児童・生徒、そういう子どもの時に読書の習慣をしっかりと付けていくこと。これはそれぞれの人生にとって大変必要なことだと思っております。町では孤高のアルピニストと言われます加藤文太郎を顕彰する図書館があります。小さな町で図書館を持っている町というのはなかなかめったにそうそうあるものではありません。そんな意味で先輩たちがしっかりとこの図書館を造っていただいた。今も大事に運営管理して、そして、皆さんの要望に答えていくそんな図書館を今町は持っております。今たぶん十万冊ぐらいあの図書館は蔵書があるというふうにも思っておりますし、山岳図書は非常に沢山の専門的な図書があるというふうにも思っております。そんなような意味で町の図書館、学校の図書館と共に利用に供していただきたいなど

というような思いをもっております。具体的に学校図書館の現状、それから今後について教育長の方で答弁をしていただきます。

教育長（岡本 操さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 岡本教育長。

教育長（岡本 操さん） 質問にお答えしたいと思います。学校では、教科学習をはじめとしまして様々な機会に図書館を利用・活用は大変重要だと思っております。読書を通して新しい世界を開き、新たな価値との出会い、人間形成の上で極めて重要な役割を担うものが読書であり図書館であるとそんなふうにも思っているところでもあります。生涯にわたり読書に親しむ習慣形成と合わせて、読書環境づくりに努めているところでもあります。議員ご指摘のように学校図書館の蔵書数は十分な状況にはありません。浜坂中学校の学校基準から言いますと8,480冊が文部科学省のいう蔵書として整備すべき標準値になっております。現在浜坂中学校の蔵書数は10,549冊でありまして、わずかに標準を上回っている状況であります。本年度の浜坂中学校の学校図書購入費予算額は65万3千円です。この金額は、但馬の他市町に比べまして率の上では多く充てているのが現状であります。ただし読書の推進という上からはこれで十分というふうには考えておりません。今後も図書室の充実、図書購入について今後ともしっかりと努めてまいりたいと強く思っているところでもあります。先程町長が申しましたが、わが町には誇るべき図書館、加藤文太郎図書館があります。ここには、10万冊に届く98,000冊現在揃えておりますけれども、これについても年々充実してきた経緯がありますし、今後さらに充実していきたいとそんなふうにも思っているところでもあります。是非ですね中学生の皆さんは、なかなか自由な時間といえますか余暇が少ないと思えますけど、是非この記念図書館の方も利用していただいたり、図書館にまつわる様々なイベントも毎年計画し実施しております是非参加していただきたいなあとそんなふうにも思うところでもあります。学校では浜坂中学校もそうでありますけれども全校生で朝読書というふうな時間をほとんどの学校が持っております。一層読書に親しみ、読書を楽しむ、読書を楽しんで豊かな感性、想像力、豊かな心を育てたいそんなふうにも思っているところでもあります。古い図書の更新、読みたい本が今以上に整えられるように学校予算の充実に向けて今後とも一層取り組んでまいりたいとそんなふうにも思っているところでもあります。以上であります。

1番（小西伶旺さん） はい。

議長（小谷 昂史さん） 1番 小西伶旺さん。

1番（小西伶旺さん） はい。そこで続けて質問します。次に危険な所についてです。私たちが毎日利用している登校階段は、周りに岩がむき出しになっている所や、上から土が落ちてくるなど危ない所があります。さらに、雨の日になると階段が川のようになり、半分通れなくなってしまう。また、グラウンド付近の階段はコンクリートがはがれていたり、部室近くには整備すらされていない道があります。これでは安心して生活を送ることができません。だから私達も節電などにつとめていきますので、どうか学校をより良くするようによろしく願います。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） 議員のご指摘のように、学校の色々な不都合な部分がそれぞれあるだろうというふうにも思っております。私どもは、皆さん方が気持ちの良い学校生活を送れるように学校の維持管理であったり、あるいは先生方の配置であったり、あるいは教材費であったりそんなものはしっかりと出来るだけ予算をつけていくように今日まで努力してまいりました。そういう中で、議員がご指摘のような箇所について現状がどうなっておるのか、さらに、今後

どうするのかという具体的なお話でございます。そこらにつきましては、西村こども教育課長の方で答弁をさせたいと思います。

西村こども教育課長 はい。

議長（小谷 昂史さん） 西村こども教育課長。

西村こども教育課長 はい。まず学校におきましては、生徒のみなさんも節電につとめていただいていることにまずお礼を申し上げたいと思います。現在学校における工事・修繕等につきましては、毎年各学校に危険箇所や改善が必要な場所に優先順位を付けて要望を取りまとめていただいて提出をしていただいております。それをもとに教育委員会が実際に現場を確認して精査を行った上で、特に危険性の高いもの緊急性の高いものから順次改修等を行っております。質問にありましたように、登校階段で土などが落ちてくる危険性のある壁面には、平成26年12月に落下防止のワイヤー等を張り、今年も登校坂の壁面の一部にワイヤーネットを張るなどの安全性を高めてまいりました。限られた予算の中で町内の学校、全学校からの要望を優先順位の高いものを見極めながら執行しているため、すべての要望にはすぐには対応できないところもございますが、常に学校と連絡を取りながら状況変化があれば適宜対応しておりますのでご理解をお願い致します。以上です。

議長（小谷 昂史さん） 以上で1番、小西伶旺さんの一般質問を終わります。次に、2番、邑橋祐樹さんの一般質問を許可します。

2番、邑橋祐樹さん。

2番（邑橋祐樹さん） はい。夢が丘中学校三年の邑橋祐樹と申します。私は、新温泉町の教育の在り方について質問します。新温泉町では、東京や大阪などで見られる待機児童の問題はほとんどありません。ほとんどの子どもは、子ども園に入園し、小学校へと進学します。そこで、少子高齢化を防ぎ、将来若者が定住できるよう、幼い頃から新温泉町の良さを伝え、新温泉町を愛する子どもを育てることが大切だと思いますが、この件について、どうでしょうか。



町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） 議員ご指摘のように今子どもさんの数が大変減ってまいりました。それに反してお年寄りの数が大変増えました。18歳になりますとほとんど多分7割ぐらいの人たちが大学に行ったり、専門学校に行ったり、あるいは就職したり、そんなことで町をあとにします。それが18歳問題ということで今非常に少子化の中で人口が減っていく非常に大きな要因の一つになっております。若い人たちがこの町に喜んで住んでくれるそんな町づくりには若い人たちの雇用の場、それから子どもを育てる、育てていく上での良好な環境の整備、そんなことが必要だろうというふうに思っております。同時にまた、議員ご指摘のようにふるさとを愛する教育、それを幼い時から家庭で学校でしっかりと子どもたちに教育していくそのことはご指摘のように非常に大事なことだと思っております。教育委員会も議員ご指摘のような点で、ふるさと教育を一貫して行っておるところでございます。ふるさと教育等々につきまして、教育長の方で答弁をさせていただきます。

教育長（岡本 操さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 岡本教育長。

教育長（岡本 操さん） 今、町長が申しあげましたけど、私の方からもお答えをさせていただきます。全国的に課題になってます待機児童の問題につきましては、わが町では、認定こども

園に入園を希望する子どもについては全てを受け入れ、待機児童を出さないように頑張っているところでもあります。未満児、これは0歳児でありますけども、この未満児が増える傾向にあります。これらへの対応も含めましてより充実した子育ての環境づくりに努めてまいりたいと考えているところでもあります。議員がおっしゃいますように少子高齢化は、今後ますます進んでいき全国的な大きな課題になっております。同時に東京一極集中から地方創生が叫ばれまして、わが町も地域コミュニティの形成、地域づくりに今全力を注いで向かっているところでもあります。

さて、ふるさとを愛する子どもを育てるということではありますが、それにはまったく同感であります。認定こども園では、どの園も町内の海や山、公園などへ遠足に出かけたり、野菜や果物の栽培、そして収穫したものを一緒に食べたり、というふうなことで自然豊かな新温泉町の良さを伝えるための料理や活動を工夫して色々行っております。また、地域の方のご厚意に寄りましてリンゴ狩りとかナシ狩りとかそういったことに出かけさせていただいたりして地域の良さをを感じる体験をしております。これは大変かけがえのないものというふうに思っているところでもあります。

小中学校では、自然学校、いきいき学校応援事業、環境体験事業など地域の良さや命の大切さを知り、自然の美しさに感動する豊かな心を育むとともに、わが町の良さを発見してわが町の魅力を実感する学習をする。そして、体験をそれぞれの学校で特色を出して取り組んでいるところでもあります。

こうした取り組みの中で一番大切にしたいのは、この地域で生活している人の営みに触れ、その生き様から学ぶことだと思っております。自分を育ててくれたこのふるさとの自然、そして人との出会いの中で、人とのふれあいの中で、私たちは生かされ生きている。まあそんなふうに思います。そして多くの伝統文化や芸能が残されている、それが新温泉町であります。長い時代を越えて引き継がれてきたまたは築いてこられた先人の皆さんの努力の上に、私たちは生きているということだと思っております。このことが実感でき、このことを大切にするという教育を今後ともしっかりと推し進めていきたいとそんなふうに思っているところでもあります。以上です。

2番（邑橋祐樹さん） はい。

議長（小谷 昂史さん） 2番 邑橋祐樹さん。

2番（邑橋祐樹さん） はい。もう一点お尋ねいたします。次に、浜坂病院について、質問します。現在、新温泉町にある総合病院は浜坂病院だけです。しかし、その浜坂病院も患者数の減少により、診療科がどんどん減少してきています。そのため、ほとんどの患者が町外の病院へ行っているように感じます。高齢化が進む中で、近くの総合病院の衰退は、大きな問題だと思います。浜坂病院の維持について、町の対応をお聞かせください。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） 議員ご指摘の浜坂病院でございますけれども、わが町には病院が公的な医療機関として病院が1つ。それから、温泉地域に診療所が3つございます。いずれも町民の皆さん方の命と健康を守る正に中核的な施設であるというふうに思っております。ただ、ちょうど10年11年くらいになると思いますけれども、お医者様の研修制度が非常に変わりました。そういう中でお医者さん方を安定的に病院の方に来ていただくということは非常に難しいことになりました。以来今日までそういう状況が続いております。おしなべて日本全国こういった地方ではわが町のような地方の病院はそういう状況が続いておるのも実態でございます。私も町長になりまして、ちょうど7年経つわけでございますけれども、就任当時は本当

に病院の存続そのものが非常に厳しい状況にあったというふうに思っております。以来その状態を何とか良い方向に持っていくように、皆さん方と一緒に努力しながら今日になったと思っております。まだまだ十分ではありませんけれども、出来るだけ診療所をも含めまして住民のみなさんの信頼にこたえる医療を提供するために、今後とも努力していきたいと思っております。浜坂病院の現状と今後の方向性につきましては、病院事務長の方で答弁を申し上げます。

仲村浜坂病院事務長 はい。

議長（小谷 昂史さん） 仲村浜坂病院事務長。

仲村浜坂病院事務長 先ず最初に具体的な数字を申し上げたいと思います。診療科の減少と共に当然に患者数も減少しております、例えば、町の合併直後の数字でございますが、入院患者については約57人程いたわけですけれども(1日当たり)それが昨年度については、33人という数字になっております。外来患者につきましては、合併当時(1日当たり)186人という患者様が来ておられました、昨年度決算では102人と議員ご指摘のような患者数の減少ということになっております。診療科につきましては、医師の減少に伴って休診したりだとか、廃止だとかそういうことを繰り返しながら、なんとか出来る限りの診療体制を維持しながら今日までやってきたということでございます。

先程町長も言いましたが、医師の研修制度、臨床研修制度がございまして、それが数年前に制度変更になってからは、以前は大学から医者を派遣していただいておりますが、その制度の変更をきっかけとして大学の方に引き上げになってしまったという状況があります。それが一つの原因となって医師不足ということが全国各地でおこっているということです。それと合わせて、特に若い医師についてなんです、当然早く技術を身に付けたいとか、そういう思いの中ではあるわけですけれども医療の高度専門化によって地方の病院においては医者も少ないですから、症例数も少ないということで経験それから資格がなかなか取りづらい、といったことで若い人にとってはなかなか魅力が少ないといった実態があり、若い医師がなかなか集まらないというような現状もございます。したがって、医者が減少するそうすれば診療科が減る、当然のことながら患者数が減ってしまいます。患者数が減ってしまったら経営が困難となって更なる投資も出来なくなるというような、負の連鎖といいますか悪循環みたいなことになっているのが現状でございます。これらが相互に作用しながら原因となって結果ともなっているというようなことでございます。したがって浜坂病院では、現在医者が少ないので手術ができないということになっておりますし、なかなか高度の治療が提供出来ないという現状がありますが、そうなったらそういった治療が必要な患者は、鳥取とか豊岡とかそういう大きな病院へ行かなければならなくなります。これから高齢化が進展してどんどん様々な病気を抱えた住民の方が増えるということが予想されますが、浜坂病院だけで治療するというのがなかなか困難な状況ですので、そういった場合には大きな病院と役割分担をしながらやっていかなければならない、治療していかなければならないというような考えでございます。それから、退院した後でございますが、退院した後でも、例えば在宅で家の方に居られて治療が必要な場合は、家まで行って治療を行うと、出向く医療を訪問診療ということを現在もやっておりますが、そういったこともやりながら、その人の生活状況を考えてその状況に応じた対応を進めていきたいというふうに考えております。健康と命を守ってそして安心して暮らすために住民の方が一番望むというのは、何といたっても病院が近くにあって、病気になったらすぐに診てくれる、そして何でも相談できるということだと思っております。このような理解のもとで、先ほど述べましたが負の連鎖といいますか“スパイラル”これらをどこかで断ち切って住民の期待に応えるように頑張りたいと思っておりますが、そのために医師確保ということはもちろんなんですけれども、

古くなった医療機器なんかも順次変えていかなければいけません。それと待っているだけではなしに地域に出向いていく、住民の中に出向いて行っているような健康の話をしたりとかそういったこともやっていきたいとかいうふうに思っていますし、先程言いましたが自宅に出向いて治療を行うというようなことも積極的にやっていきたいというふうに思っております。以上です。

議長（小谷 昂史さん） 以上で2番、邑橋祐樹さんの一般質問を終わります。次に、3番、大森貴翔さんの一般質問を許可します。

3番、大森貴翔さん。

3番（大森貴翔さん） はい。私は、浜坂中学校三年の大森貴翔です。医療が充実しているということは、私たちが過ごすために最も必要なことです。そして、過疎化を防ぐための鍵です。で



すが、浜坂病院は、小児科は週に2回か3回の診察しかなく、外科・産婦人科がありません。これでは安心して生活するどころか、ますます少子高齢化が進んでしまいます。現在、この3つの診療科がないため、今では浜坂病院ではなく鳥取の病院に行っています。8年前、姉が12歳の時、下痢や嘔吐の症状が出たため、母は浜坂病院に電話をしました。ですが、そこで「子どもは診られないので、鳥取の病院に行ってください。」といわれたそうです。このように毎週小児科がないということや、産婦人科が設けられていないということは、私たち住民として不安です。

このように毎週小児科がないということや、産婦人科が設けられていないということは、私たち住民として不安です。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） 大変厳しいご指摘をいただきました。確かに現在のところ小児科は週に3回か4回だったと思いますし、それから産婦人科につきましては、合併以前ずっと前に廃止になりましたし、それから外科の方も外科という診療科を特別に設置しておるわけではございません。ただこの間、外科もあるいはまた小児科もいずれも初期治療であったり、そういうことは診れるよという総合診療科というものを設けております。その総合診療科という診療科でそういった方々も対応していく、そういうシステムにこの間切り替えました。小児科の先生もその総合診療科におられるというふうに思っております。いずれにしても大森議員の18年前ですか、その当時外科も小児科もそれから産婦人科10年くらい前になるでしょうか、そういう全てが今あるわけではございませんけれども、先程2番議員さんのご質問の中でも若干触れましたけれども、それらをすべてそれらの科を設置して先生方に来ていただくというのが現在困難になっているということも実態でございます。今後辛い思いをされた、そんなことがないように出来るだけ医療の充実ということについて今後とも努力してまいりたいそんな思いでいっぱいでございます。具体的な診療科の等々の現状につきましては、病院の事務長の方で答弁をさせます。

仲村浜坂病院事務長 議長。

議長（小谷 昂史さん） 仲村浜坂病院事務長。

仲村浜坂病院事務長 はい。先程の議員からの質問と一部重複するところがあるかと思いますがご容赦いただきたいと思っております。ちょうど去年、町の総合計画というものを策定する時に住民アンケートを実施いたしました。その中で住民が期待しているのは、福祉医療体制が整った安心して暮らせる町ということに結果がなっております。そのような中で住民の不安材料というのは常に老後と健康だというふうに思っております。人口減少対策として住民の病気を治療すると共に、安心して出産・子育てが出来るという環境が必要だということは、議員のおっしゃ

るとおりだというふうに思っております。また、外からの移住・定住そういうものを促進するためにも、この地域の医療が充実していなければ、とても不安材料ということになってしまうというふうに思っております。

そこで具体的な質問内容ですが、浜坂病院の産婦人科というのをちょっと調べてみました。かなり前になりますが平成13年に廃止ということになっております。廃止した理由なんですけど、先程の答弁でもちょっと触れましたけども、大学からの派遣がなくなったということで廃止ということになっております。それから外科も常勤しかいなくなってからは、非常勤で繋いだりとか、なんとか体制を維持しようとしておりましたが、現在も浜坂病院には外科の医師はおりません。ただ、町長の答弁にもありましたように、外科それから小児科なり常勤しかいないわけですけど、総合診療科という体制の中で専門的な医師はいないわけですけど、ある程度の処置といえますか、小児科も対応したり、外科的な外傷処置も対応したりとか、そういう体制を現在整えております。で、ちょっと調べてみますと、医師確保は大変だということは先程申し上げたんですが、特に産婦人科、それから小児科の医師については、大変その確保が難しいということがありまして、ちょうど去年の国が行った統計を見ても産婦人科とか産科のある病院というのが、25年間連続して減少しているという結果が出ております。また小児科においても同じように22年間連続して減少しているという状況があるようです。そういった現状の中で浜坂病院では、大きな病院のようにいろんな科があって専門的な医師を沢山配置出来るというような状況にありませんので、そうではなくて浜坂病院の総合診療科を經由してより専門的な治療が必要な場合は、専門的な医療機関なり先生の所に照会するというのをやっていったり、大きな病院へ照会したりとか、そういったことの連携体制は整えておりますのでそういった連携を進めていきたいと思っております。

それから質問の中で、8年前にご家族の方が小児科の診断を断られたということですが。確かに調べてみたら、その当時は長く小児科というのは休診ということになっておりました。大変今のような体制もなくしてご迷惑をかけたというふうに思っております。今後も浜坂病院の医療体制の充実を目指して、皆さんの意見を聞きながら少しでも皆さんの不安を取り除くことが出来るように、安心して暮らせるように頑張っていきたいというふうに思っております。大きな病院ではなくて小さな病院だから出来ること、そういったものに光を当てながら頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

3番（大森貴翔さん） はい。

議長（小谷 昂史さん） 3番 大森貴翔さん。

3番（大森貴翔さん） はい。最後に、老若男女の住民が、命の終わりまで安心して暮らせるため、医療の充実を強くお願いします。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） 議員ご指摘のように町民のみなさん各層・各界の方々の命と健康を守る中核が我が公立の病院であり、診療所だというふうに思っております。議員のご指摘重く受け止め今後とも皆さん方と共に医療の充実誠心誠意努力してまいりたいというふうに思っております。今後の具体的な展望については、病院事務長の方で再度答弁をさせていただきます。

仲村浜坂病院事務長 はい。

議長（小谷 昂史さん） 仲村浜坂病院事務長。

仲村浜坂病院事務長 はい。現在の国における政策だとか地域医療の現状そういったものを考えた時に今後さらに厳しい状況が続くということが予想されるわけですが、限られた資源の中でそれらを工夫をしながら住民の安全を確保しなければならないというふうに思っております。

す。浜坂病院におきましては、総合診療、それから予防医療、在宅医療、この3本柱を方針として定め、他の医療機関とも連携してスムーズに進めていきたいと思っております。さらに高齢になってきますと、医療だけではなくて介護という問題も出てきます。介護事業者との更なる連携をも進めながら、様々な職種が一人の患者に対して関わり合いながら、病院又は家庭での療養生活というものをトータル的にサポート出来るような体制を整えていきたいと考えております。どうかよろしくお願い致します。

議長（小谷 昂史さん） これを持って3番、大森貴翔さんの一般質問を終わります。次に、4番、西川颯太さんの一般質問を許可します。

4番、西川颯太さん。

4番（西川颯太さん） はい。私は、夢が丘中学校三年の西川颯太と申します。私は、新温泉町の



介護問題のあり方について質問します。新温泉町には、身の周りのことを自分でしている元気な高齢者の方が多いです。しかし、残りの方々は、介護施設や町外に住んでいる子どもとところで世話になっている方々です。そういった人たちが次第に何もできなくなっていく高齢者の方々が、自分の暮らしてきた地区や家で暮らせるように、各地区にある空き家を利用して、こまめな訪問介護ができないかと

思いますが、いかがでしょうか。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） 議員ご指摘のように本当に今は長寿社会になりました。昨年の10月の1日の町の人口ですけれども、14,818人になりました。その中で65歳以上の方々、これは5,500人ぐらいおられます。人口比で言いますと約36%になります。ちなみに75歳以上が、3,000何がしかおられます。で、100歳以上の方の、これは4月1日現在ですけれども、19人になりました。それぞれの住民のみなさんが、長寿の社会をしっかりと元気に暮らしていただくということが町の健康福祉政策にとりましても大変な課題になってまいりました。長寿社会でありますから、どうしても介護の問題ということも反面出てまいります。議員ご指摘のように人口減少の中で、空き家が大変たくさん、多分500戸ぐらいこの町に空き家が出ております。その空き家を一口に空き家といいましても、ものすごく良い空き家もありますし、危険な、瓦が落ちたり、風が吹いたら倒れるかも分からん、そんな危険な空き家もあります。議員ご指摘のように、改造を加えれば高齢者の皆様が喜んで活用できるようなそんな空き家も中にはたくさんあるように思っております。そういう空き家を活用できないか、介護でというご指摘でございます。健康福祉課の方も今後そういったことが政策のしっかりとした柱の一つとして、対応を考えておるようでございます。森本健康福祉課長の方で具体的な考えを答弁させたいと思います。

森本健康福祉課長 はい。

議長（小谷 昂史さん） 森本健康福祉課長。

森本健康福祉課長 はい。議員の質問の内容は、家屋の空き家を利用した訪問介護についてのご質問だと思います。誰もが特に高齢者になると、住み慣れた地域で生活していくことを望んでいると思います。しかしながら家屋の構造が要介護者の生活に適さず、自宅に住み続けることが物理的に困難である場合や、また、一人暮らしである等の理由から日常生活の面で自宅での生活に不安のある場合など、要介護状態になった時に自宅での生活を困難にする要因の一つとして「住まい」の問題がございます。その解決策として、今、空き家を改修して「サ

サービス付き高齢者住宅」を整備する取り組みが全国で行われております。先程申し上げましたサービス付き高齢者住宅とは、バリアフリー化等が施された住宅に安否確認・生活相談サービス等がついた高齢者向けの賃貸住宅で、居住者の必要に応じて、食事提供や訪問介護などのサービスを受けることができます。

しかし、現在のところ、新温泉町内にはサービスが付いた高齢者住宅はございません。そのような自宅同様の生活を送ることのできる介護サービス付きの住まいが不足しているのが実情でございます。このため、町では、国の補助金の活用についても検討しながら、空き家をサービス付き高齢者住宅へ転用する取り組みを進めているところでございます。以上でございます。

4番（西川颯太さん） はい。

議長（小谷 昂史さん） 4番 西川颯太さん。

4番（西川颯太さん） 次に、関連して、先程の訪問介護施設を実現していただくために、町として、空き家を調査、整備し、民間の会社などの誘致を含めてお願いしたいと思っております。新温泉町に必要なことは、人口を増やすことも大切ですが、まずは子どもから高齢者まで、全ての町民の生活環境を整えることが大切だと思います。町のお考えをお聞かせください。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） ご指摘のように今現実にこの町で暮らしている町民のみなさん、その町民のみなさん方が生活環境を含めてこの町で住んで良かったと、そういうふうに思ってもらえるそういう町づくりが一番大事であるというふうに思っております。もちろん人口をどうして増やすかということも大事でございますけれども、ご指摘のように住民のみなさんの満足度を上げていくということが決定的に、これは必要なことであるというふうに思っております。空き家につきましては、先程若干触れましたが、実は昨年空き家等対策特別措置法が5月に施行されました。空き家は、これは私的な所有物、町のものではございませんので、それぞれの所有者がおるわけでして、それを町が調査するということは、これはこの法律が効力を生じるまでは出来なかったわけでございますけれども、昨年の5月からそういう調査を含めまして、この空き家等対策特別措置法が目的とする、そんなことがいよいよ町も出来ることになったわけでありまして。調査はもちろん、今後のそれぞれの空き家の利用できるものを危険なもの、そんなふうな仕分けの仕方、空き家を計画的にそれぞれの空き家について対応していくということが可能になったところであります。今町は、その空き家計画を、すべての空き家を今後それぞれについてどうしていくのかという空き家計画を今年中に作成するところにこぎつきました。空き家等対策協議会というものを設置しまして、委員の皆さん方に今ご協議をいただいているところでございます。その計画を策定いたしまして、いよいよ空き家についてしっかりとした対応が次の年から、29年から出来るだろうというふうに思っております。具体的に介護なり先程森本課長がふれました、高齢者のみなさんに喜んでいただけるそんな介護に転用するそんなことも含めまして、森本健康福祉課長の方で今後の考え方につきまして答弁させたいと思っております。

森本健康福祉課長 はい。

議長（小谷 昂史さん） 森本健康福祉課長。

森本健康福祉課長 はい。新温泉町においても、全国的に同じですが、少子高齢化に伴う人口減少によって空き家の戸数が増加しておるのが現状でございます。特に管理がなされていない空き家、いわゆる放置空き家については、周辺の住民に対し、安全や衛生、防犯、防火などあらゆる場面で悪影響を及ぼすおそれがあることから、こうした空き家を少しでも減らしていく必要が急務となっております。昨年度、先程町長が申し上げましたが、昨年度に空き家の実態を

把握するための調査を実施し、現在、空き家やその跡地の利活用や除去等をはじめとする支援策を促進するための「新温泉町空き家等対策計画」を策定しているところでございます。また、町内にある空き家を利用希望者へ情報を提供する「新温泉町空き家バンク」制度を開始するなど、町内にある空き家の有効活用と、町内への移住定住促進、地域の活性化にも取り組んでいます。引き続き、良好な生活環境の保全を図るため、安全で安心な地域社会の促進に努めてまいりますのでよろしくお願い致します。以上でございます。

議長（小谷 昂史さん） これで4番、西川颯太さんの一般質問を終わります。次に、5番、西岡海音さんの一般質問を許可します。

5番、西岡海音さん。

5番（西岡海音さん） はい。浜坂中学校三年の西岡海音と申します。私は、新温泉町の職場につ



いて質問します。現在、新温泉町では、少子高齢化が問題となっています。そして、人口の減少を防ぐためには若者が定住しやすいよう、働きやすい場所を充実させる必要があると思います。例えば、インターネットを利用して都会の人と会議をするなど、田舎にいても仕事をしやすい環境を整えることが大切だと思います。このことについて、町はどのような取り組みをされているのかお聞かせください。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） インターネットで会議をする、今頃皆さんもスマートホンをお持ちの時代になっておるといふふうに思っております。インターネット環境を良好な環境を作っていく、情報通信の社会にあって産業の振興であったり、そうしたものの基本的なインフラといいますかそういうものであると思っております。町ではこのネット環境を整備するために、温泉地域では、11年前にケーブルテレビが設置されましたし、それから浜坂地域では、6年前7年前かな、6年前でしょうか、民間事業者が入りまして浜坂地域全域にブロードバンド事業をしていただいた経過があります。ご指摘のようにインターネットで会議をするということが可能な通信基盤が整備されたというふうに思っております。そういったことを活用しながら、良質な雇用の場を作っていく。ご指摘のようにインターネットを利用した雇用ということも十分に考えられるわけでございますし、そういったことも町の活性化のためには、必要なものと私どもは感じておるところでございます。ネット環境の整備、更にまた今後の雇用の良質な雇用のどうして作り上げていくか、企画課長の方で考え方ににつきまして答弁をさせたいというふうに思います。

井上企画課長 はい。

議長（小谷 昂史さん） 井上企画課長。

井上企画課長 はい。人口減少を食い止めるために、若者が定住しやすい、働きやすい環境を整えることが必要だというご提案でございます。新温泉町におきましては、人口減少を食い止めるために、定住ということだけではなくて、町外からの移住も含めまして人口減少を食い止めるというようなことを考えております。そのために、暮らし、仕事。それから、子育てこの3つを柱にして環境を整えるような取り組みを致しております。暮らしの分野では、定住促進のための住宅の取得に助成をしたりとか、住宅のリフォームの助成、それから、空き家物件の紹介などを行っております。仕事の分野では、町内の企業を紹介するためのガイドブックを作成したり、それから、職業の相談、新たな事業を始めようとする方の支援なども行っております。また、子育ての分野では、皆さんが中学校を卒業するまでの医療費は無料となっています。そ

の他にも保育料の負担を減らしたり、あるいは、通学費を助成するなどたくさんのお取り組みを行って定住あるいは移住しやすい、そういった環境整備を進めております。

また、お尋ねになりました町内にいながら仕事ができるようなお取り組みといたしましては、先程町長が申しましたが、温泉地域においては、ケーブルテレビによって、それから浜坂地域においては、民間事業者によってインターネットの環境が整備されました。このことによって、テレビ会議ということも可能となっております。町におきましては、今後も様々なお取り組みをいたしまして定住しやすい環境を整備してまいります。皆さんも引き続き、新温泉町で暮らすあるいは、一度新温泉町を離れても戻ってくる、そんな思いを持っていただければ大変ありがたいと思います。以上でございます。

岩垣商工観光課長 はい。

議長（小谷 昂史さん） 岩垣商工観光課長。

岩垣商工観光課長 はい。商工観光課の方が執り行わせていただいておりますお取り組みについてご回答させていただきます。新温泉町では、働く場所の確保のため、企業誘致の促進及び既存企業の育成を図るために、企業立地促進条例を設けて、企業支援を行っているところでございます。支援の対象となる企業につきましては、事業所を新しく設置した時、一定の条件があるということになりますけれども具体的な支援内容といたしまして、企業が納付した固定資産税の相当額を助成する。もう一つは、町内在住の方を1年以上雇用した場合に、一人当たり20万円を企業に助成するというものでございます。これにつきましては、いずれも5年間の助成というふうになります。補助の対象となる従業員の方は、町内在住ということとしているため、企業といたしましても、多くの町民の雇用についてご尽力いただいているところでございます。以上でございます。

5番（西岡海音さん） はい。

議長（小谷 昂史さん） 5番 西岡海音さん。

5番（西岡海音さん） はい。また、新温泉町には多くの高齢者がおられます。定年を迎えた後も働きたいという方も多くいらっしゃいます。そういった方々も働きやすい町づくりをすることで、町の活性化にもつながると思うのですが、いかがでしょうか。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（小谷 昂史さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） 議員ご指摘のように本当にご高齢の方も、実は私も65歳になったんですが、65歳から上の方を高齢者といいますか高齢人口というふうにひとくくりにします。ところがご指摘のように定年を過ぎても、まだまだ元気な方はたくさんおられます。そりゃあ90や100になれば必ずしも若い時に比べて元気だとは言えないかもしれませんが、ご高齢の方も元気な方もたくさんおられます。それぞれの年代でそれぞれにかなった役割といいますか、そういうことをしっかりとそれぞれがやっていく、その総和が町の活力だというふうに思っております。そんな意味でご指摘のように65歳になったからもうリタイアだというようなことではなしに、そういう方々にも雇用の場であったり、あるいは、いろんな意味での地域の活性化の一端を担っていただけるようなそんな課題が町の当面するものの一つであると思っております。具体的には、具体的な考え方、そういった方々をお願いしたり、そういった方々に頑張っていただく、そういうことについて現状はどうなっているのかというご指摘でございます。岩垣商工観光課長の方で答弁をさせていただきます。

岩垣商工観光課長 はい。

議長（小谷 昂史さん） 岩垣商工観光課長。

岩垣商工観光課長 はい。議員ご指摘のとおり新温泉町には、多くの高齢者の方がおられます。

年金制度の改革が行われて定年の延長、あるいは退職後の再雇用を行う企業も増えております。そんな中でも新温泉町では、香美町と協力して、美方郡シルバー人材センターの運営支援を行い、元気な高齢者の雇用の場の確保に努めているところでございます。シルバー人材センターの活動につきましては、年々その数も増やしているところでございます。また、サンシーホールにおきましては、若い方から高齢者までの就業相談も行わせていただいております。お気軽に相談していただける施設として今後もますます充実した活動をしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

議長（小谷 昂史さん） これで、5番、西岡海音さんの一般質問を終わります。以上で、五名の子ども議員の一般質問が終わりました。ここで、休憩に入ります。なお、休憩後は議長を交代させていただきます。ご協力ありがとうございました。

清水議会事務局長 では、此処で休憩を取ります。それでは、休憩は（ 15 ）時（ 00 ）分までとしますので、3分前にはブザーを鳴らしますので、議員さん方は今の席にお帰り下さい。

〈 休憩 14時45分 〉

〈 再開 14時55分 〉

議長（清水 勝大さん） それでは、休憩を解き再開します。この後の議長を務めます浜坂中学校3年、清水勝大と申します。どうかよろしくをお願いします。

それでは、一般質問を続けます。6番、中村心優さんの一般質問を許可します。6番、中村心優さん。

6番（中村心優さん） はい。夢が丘中学校三年中村心優と申します。私は、若者の定住策について質問します。新温泉町には、



自然や人のつながりなど、都会にない良さがたくさんあります。また、自然の中で子育てをするというかけがえのない教育環境もあります。しかしながら、若者は自分の町の良さを知らずに、どんどんこの町から離れています。まず、ここで暮らしている若者が、この町の良さを知り、将来、この町に定住しようというまちづくりをどう考えておられますか。お考えを、お聞かせください。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（清水 勝大さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） ただいまのご質問、2番議員の邑橋議員に対します答弁と重なり合うところがあるかと思えます。町の良さを幼い時から知っていく、そういうことは本当にご指摘のように大事なことだというふうに思っております。そういう中で、この町に住もう、あるいは、この町を離れても、やがて帰ってこよう。そういう思いにかられるのが、まさにふるさと教育だというふうに思っております。先程、2番の邑橋議員に教育長が答弁をされました。また、教育長の方で、わが町の教育のありようの一つとしてのふるさと教育につきまして、つまびらかにしていきたいというふうに思っておりますし、なおまた、具体的な若者たちがこの町に定住していく上での具体的な施策につきましては、岩垣商工観光課長の方で答弁をさせたいと思えます。

教育長（岡本 操さん） 議長。



議長（清水 勝大さん） 岡本教育長。

教育長（岡本 操さん） はい。お答えしたいと思います。人間関係の希薄化が叫ばれてから長い時間が今日まで経ちました。新温泉町には、豊かな自然と人のつながり等々、都会にはない良さがたくさんあります。しかし、議員ご指摘のように高校卒業する時には多くの若者が、この土地を離れている現実があります。大学・専門学校等進学が主な理由でありますけれども、この外に高校を卒業してから出ていくというのは、これは、やむを得ないことかなあというふうなことを思います。いったん外に出た若者が、またこの町に帰ってくる、その環境づくりというのが大変大きな課題だというふうに思っています。しかし、高校生、高校卒業時に外に出て行く高校生の27年度のアンケート、昨年でありますけれども、その高校生のアンケートを見ますと、将来は新温泉町に戻ってきたいと多くの生徒がそんなふうに思っているのも一方の現実であります。人づくりはまちづくり、まちづくりは人づくりだと言われております。2番議員にお答えしたと重なるわけでありましてけれども、ふるさとを愛し、ふるさとに誇りを持つ人を育てるといのは教育の根幹として最も大切にしたいことだとそんなふうに思っております。この世に生を受けて、この町に、ここに生まれて良かった。この地域が大好きだ。そして、この地でみんなに囲まれていること。みんなが大好きだ。そんなふうに言える町。そんなふうに言える環境づくりを、そして、そういう人間関係づくりを大切にしたい。これは、教育の一番大切なところとして、そんなふうに思っているところであります。この地域の一員として将来はこの地域の発展に尽くしたいとそういう思い入れの生まれる場所がふるさとであるとそんなふうに思っているところであります。ここに大きな役割がある、そんなふうに思っているところであります。人は、生まれてからいろいろなことに出会い、そしていろいろな人に出会い、出会いを学びとして成長していくものであります。同時に様々な体験や学習を通して新しい世界を知り、生き方を学び、自らのうちに夢を育てて豊かな人生を築いていこう。そんなふうに努力していくのも人でありまして、現在、学校園、先程申しましてけれども、学びの場を学校から地域の中へ、そんなふうに学習の場を広げていっております。地域の歴史や伝統行事、伝統文化、そして先人から学ぶ学習、いろいろと多様に進めているのが現在であります。

また、学校給食におきましても、食に関わる、携わる人々への感謝の気持ちを育てる。地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深める等々の取り組みを地域と学校と給食センターとが協力しながら食育にも取り組んでおりますし、先日もありましたけれども、浜坂漁協のご厚意によりましてセコガニ、赤イカ、ハタハタ、ホタルイカなど旬の地域の食材を提供していただいて、この地ならではの学校給食というのを味わっていただいているというふうな取組も、皆さんもご存知でありますけれども、おいしい給食を味わいながら、その中で地域を感じる。これも大切な取り組みだというふうに思っております。皆さんがふるさとについての理解を深めて、その価値を継承して次の時代につないでいくこと。そのことの大切さを知っていただきたい。そんなことを考えているところです。そのために、学校・家庭・地域が一緒になって展開している多くのことを今後も大事にしながら、さらに継承し広げていく取組に努めてまいりたい、そんなふうに思っております。以上です。

岩垣商工観光課長 議長。

議長（清水 勝大さん） 岩垣商工観光課長。

岩垣商工観光課長 はい。ご質問のとおり、若い方の町外への転出というのが非常に多くなっているところがございます。そのため、若い方が町内企業で就職し、居住していただくために、町内企業をよりよく知っていただくというために企業ガイドブックの作成をしているところがございますし、町内の中学校、浜坂高校の就職を希望されている方への配布、あるいは、ホームページへの掲載を行って魅力的な町内企業のPRを努めているところがございます。

また、定住対策といたしまして、町内に在住の45歳未満の方が家を新築、あるいは、購入、リフォームされる場合に最大50万円の補助を行う定住促進住宅取得助成制度を設けております。若い方の定住を引き続き図っていきたいという思いでございます。以上でございます。

6番（中村心優さん） はい。

議長（清水 勝大さん） 6番 中村心優さん。

6番（中村心優さん） はい。次に、関連して、町外の方々への新温泉町の良さのアピールについて、質問します。最近では、退職した方や若者の田舎への移住がブームになっています。新温泉町にもそういった方々が増えれば、人口も増加し、少子高齢化の問題の解決にもつながると思います。そのためには、まず観光客として足を運んでもらい、その中で、自然の良さを見てもらうだけでなく、自分で野菜を作ったり、それを収穫したりして、実際に体験を通してその良さをアピールすることも必要かと思いますが、いかがでしょうか。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（清水 勝大さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） ほんとに、今、全国津々浦々で押しなべて地方にあっては、人口減少というものに悩んでおるところでございます、それぞれの市や町が一杯、この人口減少を出来るだけ留めるように努力をしているというふうに思っております。私どもの町も、昨年人口ビジョンというもの、計画書を作ったわけでございます。先程4番議員さんにお答えしましたけれども、平成27年の10月1日のわが町の人口は、14,818人であります。5年前の減少率は、-7.4という数字でありました。それぞれの市や町で国立社会保障人口問題研究所というものがそれぞれの町の将来の予測人口を推計値を出しておるわけですが、若干それよりも落ち込みが緩やかだったというふうに理解をいたしておるところであります。町では、出来るだけ人口の減少カーブを緩やかにするように、中期目標として2020年に13,600人、2040年に9,900人それくらいまでは維持していくんだと、そういう中・長期にわたります計画を作ったところであります。じゃあそのためには何をするのかと、議員ご指摘のように移住・定住、Uターン、Iターンそういう方々を受け入れる、受け入れるための基盤の整備、環境の整備そういったことに注力していくというのもその柱の一つであります。町にとりましては、今後の非常に大きな課題の一つでもございます。岩垣商工観光課長の方で、移住・定住、それから、ご指摘のような貸農園、そんなことの位置づけというようなことについて答弁をさせます。

岩垣商工観光課長 議長。

議長（清水 勝大さん） 岩垣商工観光課長。

岩垣商工観光課長 はい。ご質問のとおり、最近、都会から田舎へ移住される方が大変増えております。新温泉町でも、移住して来られる方を増やしたいという考えでおります。特に、少子高齢化の現状から、若者・子育て世代の移住を進めたいというふうには考えているところではございますけれども、移住にあたり解決すべき最も大きな課題は、「働き先」と「住まい」ということでございます。働き先については、先程も申し上げましたけれども、新しく仕事を起こす起業の促進、また、起業に伴い新たに人を雇う際に補助金を支払う制度、また、働き先の確保と同時に、先程も説明いたしました補助制度、定住促進の住宅取得助成制度等を行っているところでございます。その他に、空き家バンク制度や空き家リフォームの助成制度を設け、町内で使わずにいる多くの空き家の利用を進めているところでございます。しかし、若者だけでなく、退職後の第2の人生を田舎で移住生活を希望される方もいらっしゃいます。これまで、新温泉町では京阪神から遠いため、都会から通ってくる人のための「貸し農園」の需要はあまり無いというふうに考えていました。しかしながら、高速道路の整備が進んできて、また田舎

への移住者が増加している現在、改めてそういった農業体験の需要に変化が無いか調査を進めると共に、空き家バンク制度の中で、例えば畑付きの空き家の提供など、農業体験を移住促進に活かす方法を考えていきたいというふうに考えているところでございます。このような施策を通じて移住定住の方を更に進めてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

議長（清水 勝大さん） 6番、中村心優さんの一般質問は終わりました。次に、7番、小谷穂乃佳さんの一般質問を許可します。7番、小谷穂乃佳さん。

7番（小谷穂乃佳さん） はい。浜坂中学校三年の小谷穂乃佳と申します。町の農産について質問



します。新温泉町には、山であれば全国的にも有名な牛、ジオパークがもたらす恵の中で育つホタルイカや松葉ガニなど多くの特産物があります。中でもホタルイカは水揚げ量が日本一を誇っています。しかし、富山県の方がホタルイカとして有名になっています。日本一である、ということをもっと表に出していく必要があります。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（清水 勝大さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） 小谷議員のご指摘のように、町には本当にキラキラと輝くようなそんな特産物がございます。この自然と歴史が育んだ天下の名牛但馬牛であったり、今ご指摘のような松葉ガニ、ホタルイカ、ハタハタ、枚挙にいとまもないくらいそんなたくさんの本当に特産物がございます。先般、昨年ですけれども、神戸ビーフと但馬牛が国の地理的表示保護制度、略してG1と言うんですけども。これは、国がこの品物は、この地方でしか作れないということを認証するそんな制度であります。但馬牛は、本当に今や世界のブランドになりました。おかげさまで、子牛価格も枝肉価格もどんどん上昇しております。対するに海産物の方も大変昨年の実績を見ますと松葉ガニも、それから、ご指摘のハタハタも大変高値で推移いたしました。ご指摘のように、ホタルイカも日本一でございますし、それから、松葉ガニも単一漁港では日本一の漁獲量を誇っているというふうに思っております。これらを積極的にアピールをしてもっともっと日本一を全面的に押し出してアピールするべきだというご指摘でございます。誠にそのように考えておるところでございます。漁業協同組合と連携しながらいろんな催しであったり、これからの販売であったり、そんなことを通じましてご指摘のように日本一を前面に出して、これからも頑張っていきたいというふうに思っているところであります。今の取組の実情につきましては、農林水産課長の方で答弁をさせていただきます。

太田農林水産課長 議長。

議長（清水 勝大さん） 太田農林水産課長。

太田農林水産課長 はい。小谷議員の質問がありましたとおり、町内には全国的には有名な特産物がたくさんございますが、特にホタルイカが水揚げ日本一でありながら、知名度が低いというのも残念ながら現状であります。富山県が有名なという一つの要因としましては、沿岸部に集まってくるホタルイカの光景自体が国の天然記念物になっているということもあろうかなあとと思いますが、漁獲量が一番多いという中で浜坂漁業協同組合では、7年前から兵庫県阪神地区を中心としましてホタルイカのPR実践事業を行っております。町としましては、実践販売の経費の支援を行ったり、連携をして販売促進に努めているところでございます。

また、現在地産外商担当の地域おこし協力隊がおります。都市部のホテル、飲食店または小売店等に直接ホタルイカ等を持っていきましてPRするとともに販路の拡大を図っているところでございます。しかしながら、これだけでは富山県より兵庫県の方がホタルイカの水揚げ日

本一ということにはなかなか繋がってこないかなあというふうに考えております。そのため、兵庫県で獲れましたホタルイカを有名にしていくということで、町または、漁協と連携しまして水揚げされたホタルイカを日本の大市場であります東京で販売出来るように今検討しているところでございます。以上です。

7番（小谷穂乃佳さん） はい。

議長（清水 勝大さん） 7番、小谷 穂乃佳さん。

7番（小谷穂乃佳さん） はい。その為、特産品を使った浜坂の新しい郷土料理を作ったり、「ホタルイカの町」などのように、一つの食材に重点を置いた取り組みなど、もっとこの町をPRしていかななくてはならないと思います。現時点で、そのようなこの町ならではの特産物をPRする新しい取組を考えておられましたら是非お聞かせください。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（清水 勝大さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） ご指摘のようにホタルイカ、私も大好きでありまして、特に沖漬けという、本当は漁師さんが船の上から沖に出て、船の上から生きてるのをぐっと漬けた沖漬けというんですが、そういうのが大好きであります。学校給食にもひょっとしたら出ているんじゃないか、その沖漬けではなくて、ホタルイカも出ているんじゃないかなと思いますけれども、漁協の婦人部のみなさん、それから漁協の直販部のみなさん。実は、冷凍技術が非常に発達しまして単なる急速冷凍ではなくて、細胞が死なないように壊れないような冷凍の技術が非常にこの間普及しました。わが浜坂漁協も、実はその最新の冷凍施設を持っておるところでありまして、それでやりますと長距離の輸送にも当然耐えられるところでございますし、鮮度も獲れたてと全く変わらない、そんな優秀な商品も生まれておりますし、以前のように袋詰めして販売するだけではなく、新たな展開も今非常にPRも含めて漁協の皆さん方頑張っていたいただいております。町としましても、一緒になってこれからも共にホタルイカ祭り等々のイベントもこれからもやっていくつもりでございますし、一緒になって頑張っていきたいというふうに思っております。具体的なPRであったり、これからの販路の拡大であったり、改めて商工観光課長の方から答弁をさせたいと思います。

岩垣商工観光課長 議長。

議長（清水 勝大さん） 岩垣商工観光課長。

岩垣商工観光課長 はい。水揚げ量日本一を誇るホタルイカということで先程農林水産課長が申し述べましたけれども、浜坂漁協を中心に特産物PRを行っているところでございます。町としては、春にはホタルイカまつりを開催いたしまして、様々な料理を提供してホタルイカの美味しさと魅力、ホタルイカの町をPRさせていただいております。今年は、全国から約28,000人もの来場者が来ていただいております。

また、浜坂漁協女性部は佃煮の商品化を実現しておりますし、平成26年には、ひょうごの農とくらし研究活動コンクールの最優秀賞を受賞されております。先程町長お話の中で、ありましたけれども、新しい取り組みといたしまして、船上でのパック詰めをした鮮度抜群の「浜ほたる」の商品、また、特殊な冷凍方法で生食が可能となった「プロトン冷凍浜ほたる」こういった新しい商品の販売も開始をしておるところでございます。新温泉町=浜坂のホタルイカということで普及・PRを行っています。水産事業者、観光事業者も、春になるとホタルイカの料理を提供する取組を行っているところでございます。地元の皆様にも親んでもらいたいということで、小中学校の給食にもホタルイカ料理を加えさせていただいております。

さらに、PRする新しい取組といたしまして、「道の駅 山陰海岸ジオパーク浜坂の郷」が来年オープンいたします。特産品として、多くのホタルイカ関連商品を販売し、広く観光客

の皆様にも知っていただくという場となれば、というふうに考えているところでございます。ホタルイカといえば新温泉町と言われるような認知度向上に向けて努めてまいります。以上でございます。

議長（清水 勝大さん） 以上で7番、小谷穂乃佳さんの一般質問は終わります。次に、8番、小滝咲さんの一般質問を許可します。8番、小滝咲さん。



8番（小滝 咲さん） はい。夢が丘中学校三年の小滝 咲と申します。私は、新温泉町の農業のあり方について質問します。新温泉町の豊かな自然を生かして、農業にもっと力を入れて、新温泉町ならではの特産物を作っていけたら良いと思います。そのために、現在は、高齢の方が多くて細々と取り組まれている農業を地域ごとや町全体で、会社化して取り組んだらどうでしょうか。そうして若い人にもっと積極的に農業に参加してもらうことで、生産効率の向上と、人口増加につながると思いますがどうでしょうか。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（清水 勝大さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） はい。小滝議員のご質問にお応え申し上げたいと思うんですが、農業問題ご指摘のように非常に苦しい状況が続いております。世界的には、TPPの問題というのが改めて惹起いたしておるところでございますし、特にこれから環太平洋のそれぞれの国で批准をめぐる、大変先行き不透明な状況が続くだろうというふうに思っておりますけれども、この条約が批准されますと、今の農業について非常にこう更に一層難しさが加わっていくというような認識を致しているところでもあります。町の農業の担い手を見ますと今の町の農業を担っていただいている方々の高齢化が如何せん非常に加速度的に進んでおるところでございます。そういう中で、地域で会社化というご提言でございます。これは、地域での法人化という意味であろうと思っております。農地の貸し借り、あるいは保有というものは、現段階では農地法の壁がございまして株式会社そういった会社が取得しあるいはまた借りるということは規制上出来ない仕組みになっております。農業生産法人がそれらが出来るわけございまして、地域を一つの農場というような視点でとらえて、法人化とすればというような趣旨であろうかというふうに思っております。これからの農地と農業を守っていくという視点からの得た指摘であると思っております。それぞれの地域の農地をしっかりと確保し保全し、そして今ある生産力を維持していく。まずもってこれが必要なことだというふうに私も認識しておるところでございます。特産物の振興を出来るだけ優秀な商品を育てていく、そういう課題もご指摘のようにあるものと非常に大きな課題であるというふうに思っております。わけても当地におきましては、積雪寒冷地帯、なおかつ水田単作でしかも条件不利地がたくさんある。そういう農地の環境でございます。そういう中であって労働集約型のそういった特産物を開発していくこと、それは、この町のそういった地理的な自然的な環境の中で大変大切なものだと私自身も思っておるところでございます。今後のそういった特産、あるいは、農業振興につきましての具体的な施策につきましては、担当の農林水産課長の方で答弁をさせます。

太田農林水産課長 議長。

議長（清水 勝大さん） 太田農林水産課長。

太田農林水産課長 はい。小滝議員の言われましたとおり、新温泉町には豊かな自然があります。日本海に面した地域から標高約1,000mに至る山間部の地域まで自然に大変恵まれた地があります。この恵まれた自然を生かしまして、新温泉町ならではの特産品を作っていくことは

町にとっても大変重要なことと考えられます。

現在、政府が提唱しています地方創生事業の一つで山村活性化支援事業というのがあり、現在事業実施計画書を作成中でございます。この事業につきましては、地域に眠っている地域資源を活かした地域活性化事業で、山間部に自生している山菜などを栽培することで特産品にしようというふうに計画しております。

また、この事業は今年度を含めて3年間でございますが、4年後には会社設立を目的としているものでございます。そのため、今年と来年は、山菜等の栽培と組織体制づくりをしっかり行うことが必要であります、町としましてもこの組織の今後の運営を指導していくということとしております。

また、ご指摘の農業者の高齢化というのが大変進んでおります。集落の営農組織というのがいくつか町内の方にもございます。その組織の法人化でありますとか、生産販売加工とか一貫して行う独自産業か、加入による会社化。さらには、新規就農者の方に最大年間150万円を5年間ということの経営支援農家の施策等もございます。そういったことを活用しまして若い人が参入しやすいような環境作りというものを今後も務めていきたいというふうに考えております。以上です。

8番（小滝 咲さん） はい。

議長（清水 勝大さん） 8番、小滝 咲さん。

8番（小滝 咲さん） はい。次に、関連して、不要施設の再利用について、質問します。現在、新温泉町では、過疎化が問題となっています。その理由の一つが、若い人達の働く場所が少ないことにあると思います。そこで、閉校した学校など、不要となっている施設に、新温泉町独自の温泉や豊かな自然を利用した、今以上に効果的な企業誘致をすることで、地元の人働ける場所を増やすことができます。それにより、若い人たちの流出を減らし、過疎化を防ぐことができると思いますが、いかがでしょうか。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（清水 勝大さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） 不稼働資産。空いている施設でもって企業誘致をというご提案でございます。企業誘致良質な雇用の場を作っていくそういう意味での企業誘致。かつてまだ合併以前浜坂でも一つ優良な企業が来ていただきました。温泉地域でも、旧温泉町でも優秀な企業さんに進出していただきました。いずれの企業も地元と地元で親しみ良好な雇用環境を作っていたとおると。しかも、ともに食品製造業で町の経済の牽引をしていただいております。そういう意味で企業誘致というのは本当に大事な、来ていただける企業、そういう企業に来ていただけたらというふうにも念じているところであります。二つの企業がわが町に来られましてから随分と経つわけでございますが、その間経済も経済環境も非常に以前と違って、国内経済は縮小収縮しておりますし、対するに経済は、グローバル化の波を受けて大変な国際化が進んでおるところであります。現時点での企業誘致、依然と非常に異なりまして難しさを同時に感じておるところでございます。不稼働施設の効果的な活用も我々としては、特に温泉高校等々、今後の町の活性化に向けて一つの有力な資産の一つだというふうに思っているところでございますけれども、そういう意味であの施設を活用したいというふうに思いますけれども、なかなか状況としては、厳しいものがあるというふうに思っております。若者がこの町に住んでくれる。そのためには良質な雇用の場をどうしても作っていかねばならん、そういう雇用の場を作っていく具体の施策、更にまた企業誘致の現状について改めて岩垣商工観光課長の方で答弁をさせます。

岩垣商工観光課長 議長。

議長（清水 勝大さん） 岩垣商工観光課長。

岩垣商工観光課長 はい。ご指摘のとおり新温泉町には、閉校となった学校があります。その中のいくつかは、地域での活動に使われておまして、地域の活性化の役に立っているというふうに考えております。現在、新温泉町では、竹田地区にある旧浜坂高校温泉校の跡地を地域活性化施設として、企業誘致を行っているところでございます。閉校当初は、いくつか利用希望の企業からの相談等もありまして、何件かのご相談を受けておりました。残念ながら、最近では相談件数も少なくなっている現状ではございますが、今後も兵庫県や関連する団体のホームページへの掲載等情報発信を行って、企業誘致の促進を図り、若い人の雇用の促進を図っていきたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

議長（清水 勝大さん） 以上で8番、小滝 咲さんの一般質問は終わります。次に、9番、坂本智華さんの一般質問を許可します。9番、坂本智華さん。

9番（坂本智華さん） はい。私は、浜坂中学校三年の坂本智華です。私は、道路の整備と防犯灯



の設置について質問します。現在の新温泉町には、田井や三尾など道路の整備が行き届いておらず、外灯が少ない道が多くある地域があります。こういった生活道路の安全性は最低限なされていなければならないと思います。また、町の発展のため他地域との交通網の不便を無くしていかなければならないと思います。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（清水 勝大さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） 田井、あるいは三尾。これは、県道三尾浜坂線の話だというふうに思っております。道には、国が管理する国道と、国が国の設置管理する国道と、それから県の県が設置管理する県道と、それから町が設置管理する町道とそれぞれでございます。一義的にはそれぞれの設置者において、安全で、もちろん交通の安全であったり、そういったものがしっかりと確保出来るように、それぞれの設置者において対応するのが原則であります。三尾、あるいは田井について、これは県道でございますけれども町の立場として、不都合な部分安全性に欠くようなことがあるとすれば、私どもも県当局に対しまして強くお願いをいたしたいというふうに思っております。防犯灯につきましては、町民課長の方で答弁をさせたいと思いますし、先程申し上げました県道関係につきましては、建設課長の方で答弁をさせますし、尚また公共交通網の整備ということに関しましては企画課長の方で答弁をさせたいというふうに思います。

田中建設課長 はい。

議長（清水 勝大さん） 田中建設課長。

田中建設課長 はい。建設課長の田中でございます。まず、三尾地区と田井地区というようなことで話がありました。旧浜坂におきましても、特に、県で一生懸命やっていただいたのが、この浜坂から三尾に至る道路につきましては、以前は格段の努力によって今の現在の道路が出来たというふうに考えております。少し以前のことをお話させていただきますと、三尾地区は、以前は自動車が通行の出来ない地域でございました。古い話になりますけれども、昭和35年8月に旧の三尾のトンネルが完成いたしました。それまでは、浜坂からは三尾まで定期的に運搬船が通っていたということで、車の行けない地域でございました。しかし、その旧トンネルにつきましても、幅員が2mと狭くて緊急車両が通れない、また除雪車が通れないということから、さらに地域からの要望を受けて現在のトンネルが昭和57年9月に完成致しました。それにもなって路線バス等も通行できるようになったものでございます。また、浜坂から田井

を經由して三尾までの道路は、先程町長が申し上げましたように、県道三尾浜坂線ということで県の管理する道路でありますけども、その道路につきましても自動車のすれ違いの出来ない幅の狭い道路でありましたけども、この三尾のトンネルの工事という理由づけの中で、ダンプや、生コン車の大型車が通行する必要があることから、昭和50年代につきまして道路幅員が現在の状況となり、二車線でございますけども、すれ違出来る可能な道路となったものでございます。さらには、現在のトンネルが完成後、三尾にいく道路につきましても狭く、急こう配の道路でございましたけども、それも勾配を緩くし道路の幅も広くすることで現在の道路が出来たものでございます。最近、他の地域の道路が悪い所から改良しているということで少し停滞しておりますが、小三尾から大三尾につきましての県道改良につきましては、地形が急峻であり、多額の予算が必要であることから少し進捗が遅れておりますが、現在でも町あるいは地域と合わせて県の方に要望をしておるところでございます。県も5年ごとに計画を見直しをしながら、より良い道路に計画を実施をさせていただいておりますので、今後ともその計画の中で三尾地区、または田井地区の道路につきましては、お願いをしておるところでございます。また、町道におきましても、危険個所の点検、それからPTAや地元区からの要望を受けて全てではございませんけども予算の範囲内でそれぞれ改善を行っております。ご理解をお願いしたいと思っております。

それから、私どもの道路という形の中で、街灯ということがございました。ハードの部分について少し説明をさせていただきます。街灯には、「防犯灯」と「道路照明」と二つございます。「防犯灯」は夜間に人が通行する生活道路で、道路が暗くて通行に支障のある場所や防犯上不安のある場所に地元（区）が設置するものでございます。地元が設置するに当たりましては、町の方から最大50%の補助を行っております、皆さんが例えばこういうところがやっぱりあった方がいいなということになりましたら、お父さんお母さんを通して区に申し出ただければ、町の方といたしましても現在この防犯灯につきましては採択が100%となっておりますので設置が出来るものと思っております。

道路管理者がします「道路照明」というものがございます。これは交通事故を防止する為に、二車線以上の道路の交差点だとかトンネルの入口などに設置して歩行者等を運転者が確認する為のものでございまして、これは道路管理者が設置するものでございます。ただ設置するには、多額の予算があることから少し数は多くはございません。今後におきましても必要なところにおきましては、検討を行い実施をしていきたいという思いでございます。以上でございます。よろしくお願い致します。

井上企画課長 はい。

議長（清水 勝大さん） 井上企画課長。

井上企画課長 はい。新温泉町と他地域を結びます交通網につきましては、自動車それから公共交通機関では、鉄道、バス、それから、新温泉町で発着はございませんけども大都市圏と結ぶ交通面では飛行機というものがございます。まず、自家用車では、現在工事中の山陰近畿自動車道、これが栃谷から香美町の余部まで、これが来年開通の予定でございます。

また、引き続きまして栃谷から居組までの区間につきましても事業に取りかかるといような計画がございます。

二つ目に、鉄道でございます。以前に比べまして列車の本数が減るなど不便な状況がございまして、毎年JRの方に利便性の向上を要望をしておるところでございますけども、その実現のためには、利用者の増加ということが求められております。このため、町の方では職員の神戸出張などの際に鉄道利用というものを進めておるところでございます。

それから、三つ目に、バスでございます。町内を走る町民バス「夢つばめ」のほか新温

泉町と他地域を結ぶ路線では、湯村とそれから鳥取駅を結ぶ「ゆめぐりエクスプレスバス」、それから湯村と八鹿駅を結ぶ「路線バス」、それと新温泉町と大阪や神戸を結ぶ「特急バス」というのがございます。このうち「ゆめぐりエクスプレスバス」と、それから湯村と八鹿駅を結ぶ「路線バス」につきましては、運行を維持していくということで町の方から補助金を出しております。

それから 最後に、空の便でございますけども、新温泉町に空港があるわけではございませんけども、近くには、皆さんも小学校4年生の時に利用されたと思います、「コウノトリ但馬空港」、それから、鳥取の方には、「鳥取砂丘コナン空港」がございます。町の方では、コウノトリ但馬空港の利用促進につきまして新温泉町の方などが利用する場合、あるいは、町内の小学生の社会見学などの場合航空運賃などの助成を行っております。交通機関の利便性が良くなっていくということは、新温泉町を訪れる人を増やすことに繋がります。そして、さらに、町の発展へとつながっていくものだと思います。そのためには、今後も道路網の整備や交通機関の維持確保の取組を継続するとともに、普段から「乗って守ろう地域の足」ということを合言葉に、みんなで公共交通機関の利用を進めていくということが大切だと考えております。以上でございます。

谷田町民課長 はい。

議長（清水 勝大さん） 谷田町民課長。

谷田町民課長 はい。生活道路の安全性の確保につきましては、道路整備といったハード事業だけでなく、地域における防犯活動等のソフト事業も大切でありますので、防犯の観点から申し上げます。町では、行政、警察、防犯協会等が相互に連携し、住民の安全と安心の確保に向けた様々な取り組みを展開しております。たとえば、犯罪被害者から緊急時に子どもたちが駆け込む「子どもを守る 110 番の家」の取り組み、それから、地域で設立した町づくり防犯グループによる防犯パトロールの実施、高齢者などを対象にした振込み詐欺、悪質商法等による被害防止のための広報・啓発などの事業を展開しております。こうした日々の活動が、町の犯罪抑止や減少に大きく貢献いただいているところだと考えております。今後も引き続きまして住民皆様と連携して防犯活動に取り組んでまいります。以上でございます。

9 番（坂本智華さん） はい。

議長（清水 勝大さん） 9 番、坂本智華さん。

9 番（坂本智華さん） はい。そして、現在の浜坂は、観光客が駅から町を見たとき、風情がなく、どこにでもありそうな町としてみられてしまい、印象に残りにくく、再び訪れようと思わないのではないかと心配になります。更に、浜坂の玄関口ともいえる駅にもゴミが落ちており、このままでは人口も観光客も減少していくばかりになってしまうのではないのでしょうか。

岡本町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（清水 勝大さん） 岡本町長。

岡本町長（岡本英樹さん） JRの浜坂駅は、町の大事な玄関口の一つでございます。ご指摘のようにゴミがあったりそんなことはもつてのほかでございますし、町としましても、そういうことのないように啓発を含めて対処していきたいというふうに思っております。浜坂駅周辺の整備に関しましては、駅のトイレであったり、あるいはまた足湯であったり、正面の町歩き案内所であったり、漸次町の方も出来るだけ周辺環境がよいように周辺整備につきましては、意を用いてきたというふうに思っております。本当に観光に来られた方々、あるいは商用で来られた方々、そういう方々が、町に来て「あっ、この町は、いいなあ。」と、それは周辺環境とともに住民のみなさんのおもてなしの心がしっかりと環境ににじみ出ているそんな心が必要であろうというふうに思っております。3年か4年前ある観光客の方

から浜坂中学校にお便りがありました。それは何かといえば、「中学生のみなさんに道で何人にも会いました。中学生のみなさんが、「こんにちは。」そういうあいさつを何人も何人もしていただきました。こんな町は、かつて行ったことがない。」とそんな中身でありました。中学生のみなさんが、元気よく町に来られた方にあいさつをする、それも本当に大事なおもてなしの心だというふうに思っておるところでありますし、皆さんに感謝を申し上げたいというふうに思います。鳥取県の、今鳥取市になっておりますが、鹿野町、それから島根の石見銀山、あるいはまた、中山道の馬籠。それぞれ一回行ったことがあるんですが、商店街にそれぞれの家庭が玄関に花を活けておりました。玄関口には、それぞれの家庭が来られた人が一服出来るように椅子を設置しておりました。ずっとその商店街には、それぞれの家庭の玄関に花があり、そしてプランターがずっと続いておりました。おもてなしの心というのは、実はそういうものではなかろうかというふうに思っております。そんな町づくりをこれからしていきたいなあとそんな思いを持っております。浜坂駅の状況につきましては、岩垣商工観光課長の方で取り組みの概要等をご説明申し上げたいというふうに思います。

岩垣商工観光課長 議長。

議長（清水 勝大さん） 岩垣商工観光課長。

岩垣商工観光課長 はい。浜坂の玄関口であります浜坂駅は、通学や通勤はもちろん、通院や買い物、旅行の交通手段としてご利用いただいているところでございます。議員ご指摘の風情がなく、どこにでもありそうな町、印象が薄いという感想も一つの感じ方であろうかというふうに思います。ただ一方では、暖簾のかかる駅舎、足湯、まち歩き案内所など特徴ある施設があり、懐かしさを感じる風景があるという意見もお聞きしておるところでございます。

また、少し足を伸ばせば、味原小径沿いの町並みであるとか、白砂青松の浜坂海岸など、浜坂の歴史や文化が感じられ、印象ある風景もたくさんあるというふうに思っております。

ただ、浜坂駅にゴミが落ちているという状況へのこの町の将来を危惧するという点については、確かにそのとおりであるというふうに思います。人を迎えるおもてなしするということは、町を美しく保つということに通じるというふうに思います。町をはじめ列車を運行するJR、駅に隣接する商工会や商店の皆さん、それにボランティアの方々が、日々清掃してくださっていますが、残念ながらゴミがなくなるということはありません。自分が出したごみはルールを守って廃棄するということを実行すれば、ゴミの放置はなくなるというふうに思います。町といたしましては、更なる美化啓発に努めてまいります。訪れて良い町は、住んでも良い、住みやすい町であると思います。ユニークであったり、派手な「観光地づくり」も時には必要と考えておりますけれども、地域の人との交流に焦点を充て、住んでいる人たちが活力を持ち、暮らしぶりに魅力もてる「観光地域づくり」も進めたいというふうに考えております。その実現のためにも、議員の皆様若い力を結集していただけることを願っております。よろしく願いいたします。

議長（清水 勝大さん） これを持って、9番、坂本智華さんの一般質問は終わります。次に、10番、谷田大登さんの一般質問を許可します。10番、谷田大登さん。

10番（谷田 大登さん） はい。浜坂中学校三年の谷田大登と申します。文化施設の整備と宣伝について質問します。僕は2年生の秋、諸寄の歌人前田純孝の新聞を書き、その後、新温泉町の



皆様のおかげで京都へ「夢千代日記」の演劇を観させていただきました。ありがとうございました。鑑賞が終わった後、友だちが演劇に感動して調べてみたいと思ったようですが、石碑のある場所は雑草だらけで、石碑がかくれてしまっていて危ない場所にありました。僕が行った資料館は、さびれていて蜘蛛の巣がはっているほどでした。一度、夢千代の影響

で人気は出たものの、それ以後知名度は右下がりになり続けてしまっています。

岡本町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（清水 勝大さん） 岡本町長。

岡本町長（岡本英樹さん） ご指摘のように、町が生んだ先人の方々、前田純孝等を筆頭に大変たくさんの方々。学者であったり、文化人であったり、墨客であったり、芸術家を含めて大変たくさんの方々をこの町は輩出しております。町は、以命亭を中核にして、それらの方々を顕彰するとともに紹介しながら、先人が築いたそれぞれの分野の業績を広く住民のみなさんはもとより、大事にしていくように取り組みを進めているところであります。夢千代日記で前田純孝が演劇の中で紹介をされたと思います。皆さん方が京都で夢千代日記の舞台を見られて、舞台芸術の素晴らしさを感じられたと、私どもも皆さん方に行っていただいて良かったとそんな思いを改めて感じておるところであります。前田純孝の碑、あるいは、その資料館等々のご指摘の現状につきまして、生涯教育課長の方で現状とそれから今後につきまして答弁をさせたいとは思いますが、若い時にあぁいった舞台芸術に触れる、先程1番議員さんでしたか図書館の話も出ました。若い時に書を、書に親しむというようなことは皆さん方にとって、それぞれの人生にとって、非常に大事なことであるというふうに思っております。是非ともそういう機会を出来るだけとらえ、今後もそういうふうにそれぞれの皆さん方が、そういう機会を大事にして欲しいというふうに思っているところでございます。

清水生涯教育課長 議長。

議長（清水 勝大さん） 清水生涯教育課長。

清水生涯教育課長 はい。中学2年生の時に、郷土の先人「前田純孝」について調べて、それを壁新聞として発表されたとのこと、また、京都で公演された「夢千代日記」を観劇され、新温泉町に生まれ育った中学生が自分たちのふるさと『新温泉町』の文化や先人に興味や関心を持たれたことは、大変嬉しく思います。

先ほどの議員ご指摘の「新温泉町の文化施設の整備と宣伝をもっとすべきではないか。」との質問ですが、新温泉町は、他市町に比べて郷土の先人が多く、歌碑や詩碑、記念碑が多くあります。これは地域の人たちが地域の先人を尊敬し、その功績を後世に伝えようとする思いが深く、その思いが形として表されたものが地域の歌碑や詩碑、記念碑です。

これらは新温泉町が建てたものもありますが、多くは地域の方が地域の先人の功績を後世に伝えるために、地域の人たちによって建てたものです。友たちが見られた前田純孝の歌碑も昭和44年に諸寄地区の人たちが諸寄出身の先人、前田純孝の功績を後世に伝えるために建てられたものです。

また、議員が調べに行かれた資料館も、諸寄地区の方々が地域の先人や歴史を後世に伝えるために資料館（室）として整備されたものです。新温泉町としても、引き続きこのような地域の皆さんの取り組みを大切に、地域と一緒に文化の薫るまちづくりを進めていきたいと思っております。

現在、新温泉町内の文化施設としては、「加藤文太郎記念図書館」「ジオパーク館」「以命亭」「おもしろ昆虫化石館」「但馬牛博物館」「夢千代館」などがあります。議員の提案の通り、これらの文化施設の町外へのPR方法については十分ではないことは感じております。今や観光客誘致の主流となっているSNSなどの活用により知名度を上げる方法はあると思っておりますので、引き続き様々な方法を検討していきたいと思っております。以上です。

10番（谷田大登さん） はい。

議長（清水 勝大さん） 10番、谷田大登さん。

10番（谷田大登さん） はい。文化と教育は町を変えるための一番の方法です。このままでは宝

の持ち腐れと言わざるをえません。今一度、文化施設の整備と宣伝をもっと強めてください。この町が文化の力で発展していくことを願っています。よろしく申し上げます。

町長（岡本英樹さん） 議長。

議長（清水 勝大さん） 岡本町長。

町長（岡本英樹さん） ご指摘は誠にその通りでありまして、私どもも以命亭をもって中核にしているわけでございますけれども、この間、ほんとに収蔵品も大変たくさんになりました。それらの収蔵品が、劣化しないように後世にしっかりと保全していくということが、あの施設だけでは非常に困難になってきたということを感じております。ご指摘のように文化施設全体を含めまして、もう一度検討しながら将来に備えたいという気持ちでいっぱいでございます。予算的なゆとりを何とかそういったものに充当していきたいというのが私どもの思いでございます。ご指摘の教育と文化、一朝一夕にそれぞれの教育なり文化というものが成り立つものではありません。長い年月をかけて、一つの歴史、伝統とそういったものが形成され人生における人格も形成されていくものというふうに思います。文化を大事にする、教育を大事にするそんな思いは今後とも持ち続けていきたいというふうに思っておるところでございます。生涯教育課長の方で今後の文化活動等々につきましては補足があれば、答弁をさせたいと思っております。

清水生涯教育課長 議長。

議長（清水 勝大さん） 清水生涯教育課長。

清水生涯教育課長 はい。町長と同じような答弁となると思いますけれども、文化施設の整備については、いずれの施設も建ってからかなりの年数が経過しております。その整備となると相当の予算が必要となります。新温泉町としても地域の文化と教育は、まちづくりを進める上で大切な一つであることは分かっておりますけれども、限られた環境条件の中で文化施設を整備していくことは、極めて厳しい状況にあります。

しかし、新温泉町に育った子どもたちが、自分たちの故郷と『新温泉町』に誇りが持てるよう、文化施設に限らず、新温泉町の豊富な文化遺産（宝）の活用に取り組んでいきたいと思っております。新温泉町の次代を担う中学生の皆さんには、これから多くのことを見て、学び、自分たちが生まれ育った故郷、新温泉町を住みよい町にするための提案と協力をよろしく願いいたします。以上です。

議長（清水 勝大さん） 以上で、予定していました一般質問をすべて終了しました。子ども議員のみなさん、大変お疲れ様でした。

本日の子ども議会を閉じるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。私たちの町は、自然に恵まれており自然から多くの恩恵を受けています。しかし、その一方で、様々な問題も抱えています。今日の議会では、それらの問題としっかり向き合い、今この町に必要なことを考えることが出来ました。そこから問題解決への糸口をつかみ、新温泉町の新たな可能性を探り出していけると信じています。私たちは将来この町を担っていく者であり、この町のことを考える責務があると思います。そのことをしっかりと重んじて、今日は、価値のある子ども議会になったと確信しています。

議長（清水 勝大さん） 町長あいさつ。

町長（岡本英樹さん） 閉会にあたりまして、一言、御礼のご挨拶を申し上げます。大変長時間、皆様方には、お疲れでございました。新温泉町が誕生して11年目を迎えているわけでございますけれども、その中で3回目を迎えた子ども議会ですが、議員の皆さんからいただきましたご質問には少子高齢化、過疎化対策をはじめ、医療、農業、観光、特産品PR、道路、教育、文化施設など非常に多岐にわたります行政課題について、いずれも中学生の鋭い視点で、なお

また、一人の町民として町づくりの視点からの質問でございました。皆さん方が堂々と発言されている姿は、とても立派で感心をいたしたところであります。町といたしましても、皆さんからいただきました貴重なご意見とご提案には、しっかり受け止めて大いに参考とさせていただき、今後の町づくりに役立てていきたいと思っておるところであります。新温泉町は、約15,000の人たちが住んでいます。私は、全ての町民のみなさんに、「新温泉町に住んで良かった。これからも住み続けたい。」そんなことを実感していただけるような町づくりに、今後とも取り組んでまいりたいと考えているところでもあります。皆様方におかれましても、ふるさと新温泉町を愛する気持ちをいつまでも大切にさせていただくとともに、この経験を大いに生かして、それぞれの学校で、学業、スポーツ、文化活動に一層活躍されますことを心から願っておるところであります。今後とも、この子ども議会での経験を一層活かし、学校生活の様々な場面で、ご自分のご意見を堂々と述べられますように、努力をしていただきたいと思います。そして、いずれは、皆さんの中から将来の新温泉町議会議員、あるいは、町長、教育長となってこの場に戻って来ていただければと思っております。

最後になりましたが、本日傍聴にお越しいただきました関係各位、子ども議会が厳粛且つ意義深く開催できましたこと、心より感謝を申し上げます。新温泉町の次代を担うお子さん方が、心豊かでたくましく育つことが出来ますように、一層のご支援とご協力を切にお願いを申し上げます。閉会のご挨拶とさせていただきます。本日は、誠に有り難うございました。

議長（清水 勝大さん） 以上をもちまして、第3回新温泉町子ども議会を閉会といたします。

ありがとうございました。

午後3時55分 閉会